

人がやらないうことをやる

この仕組みは「オートファジー」とよばれ、大隅さんは1988年、この現象を世界で初めて顕微鏡で観察しました。オートファジーの動きに異常があると、細胞にごみがたまり、病気になるそうです。最近、多くの人が研究を始め、病気の治療や薬の開発の研究



ノーベル賞の受賞が決まり記者会見する大隅良典さん=3日、東京都の東京工業大学

日本人のノーベル賞受賞は3年連続で、大隅さんが25人目です。授賞式は12月10日にスウェーデンであり、賞金800万堀(約9500万円)がおくられます。

さらに
くわしく

細胞の「オートファジー」を解明

人が生きる上で大切な仕組み

動物や植物は、顕微鏡で見ないとわからないほど小さな細胞でできています。人間をつくっている細胞は約60兆個。それらはいつも生まれ変わっています。

東京工業大学の大隅良典さんは、細胞の「オートファジー」という動きを解明しました。細胞の中に膜ができて、いらぬタンパク質などを包みこみ、

ばらばらに分解して取りのぞく仕組みです。

分解されたタンパク質は、新しいタンパク質をつくるために再利用されます。また、エネルギー源にもなるので、細胞は栄養が少ないときでもたえることができます。オートファジーは細胞が生きる上で、欠かせない仕組みなのです。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。



大隅さんにノーベル賞

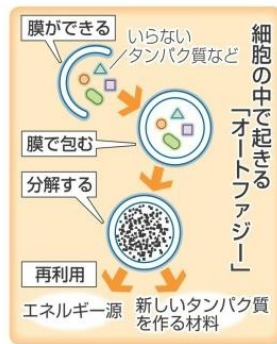
ことしのノーベル医学生理学賞に、東京工業大学栄誉教授の大隅良典さん(71)が決まりました。細胞が健康な状態をたもつために、細胞の中のいらなくなったタンパク質などの「ごみ」をリサイクルする仕組みを解明しました。

ノーベル賞ダイナマイトを發明したスウェーデンのアルフレド・ノーベルさんの遺言にもうって1901年につづられ、人類に最も貢献した人におくられます。物理学、化学、医学、生理学、文学、平和、経済学の6賞があります。授賞式のある12月10日は、ノーベルさんの命日です。

究につながっています。大発見をしました。

わたしたちの体は、たのノーベル賞は「少年時くさんの細胞でできていたの夢」でした。大隅さんは、虫とりに熱中して中へ何が起きているのかに興味を持ちました。「人がやらないうことをやる」と研究を始めたそう、自分のことを「へうけんめい追究しませ曲がり」と言っています。

記者会見で、子どもたちに「面白いと思ったこととはことんやってみよう」と呼びかけ、「いろんなことにチャレンジする子どもがふえるのを強く望んでいる」と話しました。



名前【 】

① このたび、ノーベル医学生理学賞に決まった東京工業大学栄誉教授の名前を書きましょう。

[]

② どのような研究が認められたのですか？そのことが書かれているところに線を引きましょう。

③ 解明した仕組みは、短い言葉で何と言いますか？

[]

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

[]

⑤ 書いた感想を友だちや家族と話し合ってみましょう。